



村上産業

村上産業は2019年の創業120周年に向け、国内取引の拡大や現地法人を擁する中国、タイでのビジネス強化に力を注ぐ。国内では15年に松山市の3倉庫を集約したのに続き、川之江（愛媛県四国中央市）で臨海倉庫の拡充と支店の建て替えを今夏完了した。さらに高知支店も建て替え中。いずれも効率向上を目指した施策。今秋には東京支店を日本橋に移転するなど、各拠点の稼働をさらに高めていく。

今年度の国内事業は、総じて堅調に推移している。東京支店では化粧品原材料の取り扱いが「インバウンド向け」というより、純粋な国内需要（清水完二社長）により好調



清水完二社長

製紙関連ビジネスを拡大

という。

120周年へ業容拡大を図るうえで軸となるのは主力分野である製紙関連。ビジネス拡大の余地はあり、専門性をさらに発揮しつつ、掘り下げていく（同）。この一環として力性ソーダや過酸化水素のタンクを構える川之江支店の臨海倉庫ではローリーの台数増や30トンのトラックスケール導入、積み込み設備の増設などを6月に完了。土曜、日曜も操業できる体制を整えた。これにより「さらに稼働を高めていく」

（同）方針。

海外拠点のうち上海の村上（上海）貿易有限公司は、13年目に入っている。進出当初は繊維製品関連ビジネスが8割程度を占めていたのが、現在は全体の50〜60%で、食品をはじめ取り扱い分野の拡充が進んでいる。また、製紙関連を軸に13年に設立した村上タイランドでも今後、商材や取り扱い分野の拡充に力を注ぐ考え。

日本、中国、タイの連携強化を志向するなか、とくに「上海とタイのシナジーを模索（同）している。両拠点の連携の下、ベトナムなど周辺国でのビジネス強化を目指す。



イがる
タドす
上人居ル
村ラ入ビ